

## オンライン参詣

新型コロナウイルスの感染が世界中に拡がった今年、身近な風景や日常の生活もその影響を受けて、いろいろな変化が起きています。その中で、最も存在感を発揮しているものの一つがインターネット環境の充実ではないでしょうか。ここ四半世紀ほどで急速に進化し、利用者も増えて生活に溶け込んだインターネットは、人の動きを制限してウイルスの拡散を防いだことで、俄然、需要が高まりました。職場はテレワークの在宅勤務へと移行し、対面を避けるオンラインの授業を導入した学校も増えました。講習が出来ない様々な職種の指導者やコンサートが開けないアーティストもインターネットに活路を求め、人をつなぐ新しい道具として、確実に新たな人間関係を築いています。テレワーク用のパソコンやイヤホン、カメラ等の品薄状態が続き、多くの企業が業績不振に陥る中でゲーム機メーカーの躍進が報道されるのも、利用が一気に伸びた結果であるようです。

宗門でも4月頃からオンラインの会議が増え、簡単な打ち合わせや連絡は、時間とお金を節約し、これで十分に対応できるとの認識が広がりました。中止になった佛立修学塾の授業も7月にはオンラインで再開。8月に本山で予定していた3日間泊まり込みの研修会は、3回の日程に分けたオンライン開催に変更して好評を得ました。

9月の末には、宗門の「青少年の一座」の実行委員会が世界の青少年信徒に呼びかけるオンラインの法要を企画。「勇気をいただいた」「青少年の一座の大切さが分かった」「来年は本山に行きます」等の感想が多数寄せられました。10月の本山の高祖会は、人数を制限された参詣当番の支庁から「インターネットで本山に参りたい」との強い要望が出たので中継し、「有難かった」と喜んでいただきました。同月16日、高祖ご降誕八百年慶讃ご奉公を「再始動」するための全国統一口唱会も、インターネットのお陰で講有上人の呼びかけを全宗門人が同時同刻に拝聴し、本山御宝前と世界の佛立教講を口唱でつなぐご奉公が実現して、「感動した」とのコメントが多く届きました。こうした動きは、本山御宝前と世界の信徒を簡単に結ぶ新しい形態として、これから威力を発揮していく手応えを感じます。

松風寺でも参詣制限をした5月の門祖会でオンライン参詣を呼びかけて以降、ずっと朝参詣を配信しています。現在、20名程の方が利用され、毎朝4~5名がオンライン参詣をされますが、本堂にいるつもりで参る方は相応にご信心を増進されていますから、体調の悪い方や参る手段の不自由な人には有難い道具です。ただ、他宗派のような「興味本位の覗き見も可」「視聴回数を稼げば良し」ではありませんので、パジャマ姿でのゴロ寝の聴聞は困ります。朝食を摂りながらのテレビ感覚等とならないよう、勧めてあげてください。

また、「これからはネットがご信心を拡散して下種してくれる」と喜び、「ご弘通もAI任せで済めば楽だ」と勘違いする声もあって、これも要注意です。良い道具を得て今まで以上にご弘通に励むのが正解。道具任せで功德を積まない信者を作っても意味はないのです。

(松風寺月報 令和2年11月号)